

# アグリ | ワーク | ポイント



三番茶芽(四番茶芽)は翌年一番茶の母葉に芽は十分に伸育していますか？

茶指導販売課 福手裕三

## 三番茶芽(四番茶芽)は翌年一番茶の母葉に

茶樹は、春から夏にかけて新芽の摘採で消耗した樹勢を回復し、来年に備えて母体づくりを始めます。一般に地上部と地下部が交互に生長する傾向が見られ、葉や芽の伸育が止まると根の生育に移行するので、秋肥の施用が今月の重要ポイントとなります。

## 秋肥の施用

秋肥の主な目的は、これまでの摘採や整枝で消耗した樹勢を回復させ、翌年の一番茶に向けて枝条を充実させることです。8月中旬～9月中旬頃に施用しましょう。

この時期の茶樹の生育や養分の蓄積は、翌年の新芽生育や収量、品質と関係があり、秋肥で施用したチツ素のうち12%程度が翌年一番茶に、9%程度が二番茶に、6%程度が三番茶に分配されるというデータもあります。秋肥については春肥や夏肥と比べて、特に「根部」への効果が高いと言われているので、来年のお茶の生育に対して重要と考えられます。

- ・秋肥はチツ素、リン酸、カリの三要素をバランスよく含んだ配合肥料がおすすめです。
- ・施肥後は肥効を安定させるために、浅耕して土壌混和してください。

## 病害虫防除

この時期の病害虫の被害は、一番茶に大きく影響します。ハマキムシ類がダラダラ発生の場合は、9月上旬の薬剤散布が必要になる場合があります。防除の際には丁寧に散布してください。また、ダニの発生も注意が必要です。クワシロカイガラムシは、3回発生地域で8月中旬頃から防除適期です。秋冬番茶を摘採する茶園は使用日数に注意してください。

## 秋冬番茶について

9月末になると秋冬番茶の製造が始まる地域もあると思います。秋冬番茶については、ドリンク原料などの需要が期待されているところですが、本年の情勢を考えると大変厳しい状況が予想されます。今後、市場の動向などに注意を払うとともに、取引先との情報交換を密にし、どのようなお茶がどれくらい必要なのかを協議した上で、秋冬番茶の製造を判断していきましょう。